

目**さいごのたんれい**最後の伝令  
菊谷栄物語 1937 津軽～浅草

2022 年版

作◎横内謙介

登場人物

◎劇場

菊谷 栄

榎本 健一

北乃 祭

歌川 幸子

清川 おとめ

水乃井 民子 (ターミー)

フジ子

ミス・サハラ

ソル ティ

池 ちゃん

大木 井まるこ

財津 啓二

仲村 志功

柳田 壮一

高村 平吉

◎青森

島内忠作

竹山俊吉

中村海次郎

女将・君枝

女中・トキ

女中・浜子

母・イネ

伯母・たみ

◎軍隊

松葉高志一等兵

佐々木耕造二等兵

鈴木政重二等兵

泉 正太郎二等兵

船水 努二等兵

野路敏行憲兵上等兵

工藤隊長

※台本上、ゴシック体は青森弁、明朝体は標準語。

昭和十二年九月

1

菊谷栄脚本『最後の伝令』より

劇場。

突然、緞帳が上がる。

すると舞台はまだ準備中の態。

スタッフや着替え途中の役者たちが大慌てする。

役場のお父さん役の役者が現れて、

お父さん

お前はうつかりしてるからね。人のセリフをちゃんと聞いてね、自分の

ロバート

きつかけをしつかり覚えなきゃいけないよ。

お父さん

きつかけ。

そう！ 集中してね。ここだって時にバートと出てたらもう何やたつてな、ハハハハ。芸人にとって一番恥ずかしいのは出とちり……（幕が開いているのに気がつく）っていうのがね、一番恥ずかしい……おい、困るじゃないか、まだ支度が出来ていなのに。何で幕を開けるんだ！

着替えを手伝っていたスタッフの祭、慌てて去る。

兵士に扮したトム、登場。

トム

え、なにこれ。ちよつと大丈夫ですか。また裏方がトチリやがって。とつちめてきます。

お父さん

遅いよ、もう幕は開いちゃったんだから！ それより、お前、ご挨拶してくれ。

トム

ご挨拶を僕が？

お父さん

幕だ、幕だ。監督！ 監督！

監督

あ？

お父さん

幕だ、幕。

監督

おい、まだ開けちゃだめだよ。なにやってんだよ。幕だ、幕。

幕が閉まり、トムは幕前に押し出されて

トム

皆様、本日は賑々しくのご来場、誠にありがとうございます。

さあて、お次にご覧に入れますのは当一座の当り狂言、悲劇十八番の随一、悲涙血涙さん然とくだる戦争哀話。題しまして『最後の伝令、最後の伝令』。

お父さん、顔を出して

お父さん

まだだ、伸ばして！

トム

伝令イイイイイ。

お父さん

トム

そうじゃなくて口上だよ！ 口上！  
エヘン、皆様にもし涙があるなら、今こそハンカチを取り出して、涙を拭く準備をして下さい。頃は一八〇〇年代の中頃、アメリカの良心、かのリンカーンが奴隷解放の声を上げ、巻き起こりたる南北戦争……

舞台の監督、顔を出して

監督

おい、もういいぞ。

トム

えっ。

監督

では、幕を開けて下さい。

トム

開幕っー！

幕が開く。

第二景。そこは田舎の家の前。

お父さん

もしもし、役場から参りました。

メリイ

あら役場の小使いさん、いらつしやい。

お父さん

これをお父上にお渡しください。

メリイ

まあ……召集令状じゃありませんか！

お父さん

そうです。リンカーン大統領が、戦争をおっぱじめることになったんです。

メリイ

じゃあ、お父様も戦争へ行くのですか？

お父さん

いくら歳をとつてもお父上は將軍です。第一線に立たねばならぬのです。

とお父さん、退場。

メリイ

そうだ……私の恋しいトムはどうしたかしら。トムだって兵隊さんだのに私の心臓は、発動機船のように、ポンポン鳴ってるわ。

音が鳴らない。

メリイ

ポンポン鳴ってるわ。

樂士

ポンポン。

監督

おい、音だよ音。

祭

は、はい。はい。

祭、トムに木魚を渡し、ぼくぼくと音が響く。

メリイ

！

お父さん

おい、なんだこの音は。(効果音、チーン)

メリイ

ああ、恋しいトムは、どうしたかしら。トム……トム。

樂士

トム。

監督

おい。

お父さん

おい、きつかけだよ！

すると、村の青年ロバートが駆け込んで来る。

ロバート

はい！ メリイさん、メリイさん、大変だ！（ロバート、お父さんに向かってガッツポーズ）へへへ。

メリイ

まあ、ロバート、どうしたんです？

ロバート

きつかけです！ メリイさん、あなたの恋人トムは戦死しました。名誉の戦死です！

お父さん

おいバカ、何言ってるんだ！ お前の出じゃない。トムだよ、トム。

メリイ

まだ何も始まってなくってよ、ロバート。

ロバート

あ……

メリイ

これから戦争が起きるところ。

ロバート

ああ。

メリイ

恋人の戦死のお知らせを、ニコニコ顔で有難う。（メリイ、仕切り直してポーズをする）

お父さん

ちゃんときつかけで出てこいよ。台詞の意味をちゃんと考えろ。どんな台詞だ？

ロバート

戦死は悲しい。

お父さん

そうだ、そうだ。悲しい、悲しい。

お父さん、ロバート、退場。

木魚を持ったままのトム、登場。

トム  
お待たせしました。メリイさん。  
バカ！（木魚を回収する）  
あ……メリイさん。  
あなたも戦争に行くのね。  
大丈夫、僕は……  
（プロンプして）僕は強いんだぜ。  
分かってる！そこはちゃんが入ってる……なんだっけ。  
僕は強いんだぜ。  
僕は強いんだぜ！  
村祭りのボクシングで、  
村祭りのボクシングで、  
誰だって僕に勝つ奴はいなかった。  
誰だって僕に勝つ奴はいなかった。  
おい。  
すみません。  
すみません。  
違うよ、バカ！  
ねえ、トム！お別れのキッスをして頂戴。

お父さん、登場。

お父さん

ちよつとだけ……本当にしちやイカンよ。するふりでいいんだからな。

二人、キスする。

お父さん

そこでミュージック！ 別れの曲！

アコーデオンの音が響く。

祭、パネルの上から雪を降らすのに手こずる。

監督

おい、雪だよ雪。

祭

はい。はい。

祭、パネルの横から雪を降らす。

監督

おい！ そんなのあるかよ。山川、山川！ 担げ！

力士役の山川が出てきてパネル裏に、するとパネルの上から雪が落ちてくる。

メリイ

ああ、恋しい、トム！ 死んでは嫌よ。鉄砲の玉の来ない所でしゃがんでいてね。

お父さん

いいねえ、名セリフだ。そしてメリイ、泣き崩れる。

トム　そしてメリイ、泣き崩れる。

お父さん　それはト書きだよ。

トム　あ。

メリイ　ああ。

お父さん　涙のきっかけで照明が……

すると村の青年ロバートが駆け込んで来る。

ロバート　はい！　メリイさん、メリイさん、大変だ！

お父さん　おーい！

ロバート　はーい！　大変だ、大変だ！

メリイ　まあ、ロバート、どうしたんです？

ロバート　メリイさん、あなたの恋人トムは戦死しました。（ニコニコで）名誉の戦

死です！　あ！　悲しい戦死です。えーん！

メリイ　まあ、ロバート。まだ何も始まってなくてよ。

ロバート　あ！　トム……大変だ、大変だ！

全員　大変だ。

『最後の伝令』劇中劇終わり。

舞台袖から、文芸部の高村平吉が現れる。

平吉　はい、ここで止めます！　続いて、レヴィウ・シーンの総ざらいになります

すので、お仕度ください。スタッフの皆さんにお知らせします。この『最後の伝令』は今後、予定作品の検閲が通らない場合の緊急差し替え作品となります。

一座のスターで、男装の水乃井民子（ターミー）が現れる。

平吉

おはようございます。

ターミー

おはよう。菊谷さん、おはようございます。

客席から菊谷栄（本名・栄蔵）が姿を現す。

菊谷

おはようございます……

『最後の伝令』を演じていたピエール・ブリヤントの役者たちが、菊谷の周りに集まる。

メリイ役⇨歌川幸子、トム役⇨財津啓二、お父さん役⇨中村志功、  
監督役⇨柳田壮一、ロバート役⇨大木井まるこ。

菊谷

この作品はピエール・ブリヤントにとって、大切なレパートリーです。いつ、いかなる時も舞台にかけられるよう稽古をぬかりなく。

一同

はい。

菊谷

啓二くん、座頭の真似はいらぬ。君のトムをこしらえろよ。

啓二

はい。

菊谷

幸子くんは、ヒロインなんだ。もっと大きく演じよう。大きく。

幸子

はい。

菊谷

平吉君、音楽がどうにも古いね。チェンジしよう。

平吉

はい。

志功

しかし菊さん、これこそ検閲を通るかね？ 「しゃがんで」って。

ターミー

なに、遠いアメリカの話だろ。

菊谷

サア、急がないと、また夜明けを見るぞ。

一同

はい。

「お願いしまーす」と踊り子たち（フジ子、ミス・サハラ、ソルテイ、池ちゃん）が集まって来る。

池ちゃん

菊谷さん、米久、奢りですよ。

菊谷

えっ、何のことだい？

フジ子

ヤダ、惚けないでください！

サハラ

菊さん、約束したのよ。カンカンが完成したら、全員に御馳走するって。

菊谷

おお、出来たのか？

フジ子

猛特訓したんだから。

踊り子たち

すき焼き！ すき焼き！

ソルテイ

後でご披露しますから。その目で確かめてください。

菊谷

分かった、分かった。約束は守る。

踊り子たち

(歓声)

平吉

それではオープニングから、あたっていきます。

そしてレヴィウの舞台稽古が始まる。

M1 『アレキサンダーズ・ラグタイム・バンド』(詞 菊谷栄)

皆さんお聞きよ 素敵なバンド

綺麗なお嬢さん さあさ歌いましょう

ホレきどらずに ネエすまさずに

あなたが歌えば みんな歌う

素敵なバンドが 伴奏します

太鼓もピアノも ラップもギターも

調子をそろえて 楽しく歌え

みんな仲良く ほがらかにいつも

歌えよ 歌えよ

みんな 元気に歌え

みんなで歌えば この世は楽し

心を合わせて 笑って暮らせ

みんな仲良く ほがらかに歌え

歌えよ 歌えよ

みんな元気に歌え

陽気に歌い踊る、ピエール・ブリヤントの人々。  
その姿を見ている、菊谷。  
やがて立ち去る。

数時間後。

劇場の舞台裏。

舞台稽古を終えたばかりの役者、踊り子たち。

平吉を取り囲んでいる。

清川おとめ

座長は、知ってるの？

平吉

はい、昨日、電報を。しかし、ロケ地が赤城山で。戻れないが、しつかり見送れ、と返信が。

清川おとめ

そんなこと言ったって、アタシら何にも知らされていないんだから、見送りようがないじゃないか。

幸子が来る。

清川おとめ

誰も聞いてなかったのか？

ターミー

幸子は知ってたんだろ？

幸子

……（首を振る）

平吉

菊谷さんの言い付けなんです。稽古の支障になるから、誰にも言うなと。

サハラ

それで菊谷さんは？

ソルテイ

すでに夜行で発ったそうです。

ターミー

どこに？

ソルテイ

青森です。

ターミー

そっか……

フジ子

何にも言わず、サヨナラなんてさ……

平吉

これ、皆さんに。すき焼き代だそうです。残念ながら、カンカンまでは

ご覧になれませんでした……

一同

……

平吉

手紙を書くと言っておられました。だから皆さんも、手紙を書いて下さい。青森の歩兵部隊です。

フジ子

だってすぐに満州に送られるんですよ。

平吉

それは分かりません。

清川おとめ

そもそも手紙なんか、軍隊じゃ勝手に開けられて、検閲されるんだよ。

特にアタシらみたいな気ままな稼業は、スパイされてつから。破り捨てられちまうわ。

ソルテイ

ねえ、幸ちゃん、本当に知らなかったの。

幸子

うん……

ターミー

だって、付き合ってたんだろ。

幸子

でもそれは絶対に秘密だったから。

サハラ

とっくにバレてるよ。

一同

(同意)

幸子

キクさんは、バレてないつもりだったので。

池ちゃん

座内の規律が一番、厳しい人だから。

清川おとめ

まさか自分がヒロインに手を出したとは、言えないわな。

幸子

付きまとったのは私です。

ターミー

抱き締めたのは、菊谷さんだ。しかも一回り上だよ。目に入れても痛くないって、可愛がり様だったろ。

幸子

そんなことありません。むしろ、私には厳しくて。

ターミー

それが愛だろ！

清川おとめ

その通り、アタシはこの5年、ダメだし一つもナシだよ。

ターミー

それは先輩が完璧だから。

清川おとめ

完璧な訳ないだろ。常にうろ覚えだ。

フジ子

それにしたって、戦争に行くのに、恋人に一言もないなんてさ。

サハラ

最後の言葉がダメ出し、って、ねえ？

池ちゃん

幸ちゃん、いっそ追いかけなよ。明日行けば、きっと会えるよ。

フジ子

そうだ、そんでアタシの手紙も持って行ってよ。お金借りて、まだ返せてないのよ。お礼ぐらい伝えたいよ。

ターミー

アタシも、大事なレコード、お借りしたままだ。

平吉

待って下さい。舞台稽古はどうするんですか！ 座頭がロケから帰って来るのが明後日の朝、その夜には初日をあけなきゃいけないんですよ！

池ちゃん

だって戦争に行っちゃうんだよ！ 戦争だよ！

幸子

ダメです！ そんなことしたら叱られます。一言もなかったのが、メッセージです。

サハラ

待って。それじゃ、これっきり？ アンタ、未練はないの？

平吉

なにも死ぬって、決まった訳じゃありません。

サハラ

一同

幸子

清川おとめ

幸子

清川おとめ

幸子

清川おとめ

ターミー

幸子

清川おとめ

祭

清川おとめ

祭

清川おとめ

一同

祭

ターミー

祭

ターミー

鉄砲担いで、満州に行くんだろ、支那と戦争しに！

……

おとめ姐さん、軍隊で手紙が破られるって本当ですか？

そういう噂だ。

台本はどうですか？ 破られますか？

台本？

レヴィウというか、まあ……

どうだろうねえ。

レヴィウなんて一番、戦争に必要なものだろ。

でも、それは絶対に困る……どうしよう。

へバ！ いないのか、へバ。

はい、ここさいます。

お前、行ってこい。

へ、どこにですか？

青森だよ。お前も青森だろ。軍隊の菊谷さんを訪ねて行くんだ。そん

で、みんなの手紙、渡して来い。今から、書こうよ。

(賛同)

待ってください。お稽古はどうするんですか？ (※ゴシック体は青森弁

で)

お前はいなくても問題ない。

え……

セリフもないだろう。

祭 はい。

ソルティ ヘバちゃん、訛っちゃうから。

祭 でも、何があるうと、舞台に穴を空けてはならぬと、レッスンで菊谷さんにおそわれました。

平吉 そうですよ。祭ちゃんだって、歴とした出演者です。

清川おとめ コラ、助手。分かったような口きくな！ うちが宝塚じゃねえぞ。人情捨てて芝居ができるか。

一同 (賛同)

フジ子 ヘバが、行くしかないね。

サハラ へばなら言葉、通じるしね。

祭 青森は、外国じゃありません！

池ちゃん ねえ、幸ちゃん、祭に頼もう。それでお守りとか、届けなよ。

幸子 ……

清川おとめ 伝令だ、伝令。そこで伝えて来い。「鉄砲の玉の来ない所でしゃがんでいてね」だ。

一同 (賛同)

幸子 ずっと書き続けている作品があるんです。毎月の執筆とは別に……アメリカのカツドウ写真のようなストーリーのある、ミュージカルを作りたいんだって。何度も書き直しては、その度、私に読ませてくれて。

ターミー あんたが持つてるの？

幸子 先週、また直したから、読んでみて。それを預かったままなんです。絶対に破られては困ります。祭ちゃん、行ってくれるかな？

祭 へば、私が行きます。

清川おとめ よし、じゃ、朝一で行け。汽車賃はカンパすつから。それまでにみんな

渡したい物、用意して。

はい。

一同

と解散する。

幸子 祭ちゃん、悪いね。

祭 (首を振る)

池ちゃん 幸ちゃん……

幸子 本当は私が行きたいよ。舞台なんかどうなったっていい。満州だろうが、支那だろうが付いて行きたい。

泣き崩れる幸子を池ちゃんがいたわりつつ去る。

ターミー 青森は、遠いべさ……

とタップを踏む。

その音に汽車の音が重なってゆく。

暗転。

青森、浜町の双葉旅館、その広間。

島内忠作（50）、竹山俊吉（37）、中村海次郎（35）、そして丸刈りになった菊谷栄蔵（37）。

仲居のトキと、新米の浜子が一行を広間に案内して来る。

忠作 飯はくつてきたから、軽いアテば頼む。芸者でも呼ぶが？

俊吉 今夜は飲みましょう。

忠作 女将はどした？

トキ 壮行会があつて、弘前まで。

忠作 そつちも軍隊が？

トキ いとこの子が入隊で。此の度は、御出征まことにおめでとございませす。

トキと浜子、丁寧な頭を下げる。

忠作 やめれ。何もめでたぐね。

トキ ……

菊谷 いやいや、ありがとうございます。

海次郎 酒は急ぎで持つて来て。

トキ はい。へば……

とトキと浜子はさがる。

忠作

今日もさんざん聞いたばって、おめでとう、てのはホントに不愉快だな。ご愁傷様だべ。ここからは身内だけだ、しゃんべりたいこと、しゃんべるど。

俊吉

海次郎

ええ、しゃんべりしましょう。海次郎君も膝くずして。今日はご苦勞様。盛況に終えられて良かったです。たんげ、集まって頂けて。

忠作

海次郎

この座敷は朝までいいからな。  
はい。栄蔵さんは、戻らなくていいんだが？

俊吉

菊谷

ああ、今日は外泊を届けである。  
下っ端にそんな自由はねえけど、栄ちゃんは、伍長様だから、権限があるんだ。

菊谷

海次郎

というより、明後日出発だから。今宵限りは皆、自由行動なんだ。わけえもんは女でも買いに行ってるな。

忠作

さっきの話だけど、オウは役場まで行って掛け合っただよ。何だつて、こんな中年をわざわざ兵隊にとるのか。嫌がらせか、て。栄蔵が昔、アカだったから。

菊谷

別にアカじゃあないですけど……

俊吉

あの頃、心あるわけえもんは皆、左翼ですよ。それよりも栄ちゃんは、志願兵の経歴があったから、呼ばれたんです。

忠作

んだが。一年志願兵だったって。なへ、お前、志願なんかしたんだ？  
軍人になりたかったのか。

菊谷

まあ、いろんな成り行きで……

海次郎

田中の家の軋轢もあつたでしょ。栄蔵さんの立場は、養子ですから。

忠作

でも、御養父は絶大な支援者だべ。誰よりも栄蔵の活躍を喜んでるんだよ。

海次郎

はい、大学ば終えてもずーっと仕送りば続けましてね。でも養子だすけ、なすけ〔なぜ〕栄蔵さんばかり、じえんこ〔金〕使うんだって、周りがうるさく喋って。

菊谷

志願は、自分で決めたんだ。誰に命じられてもいね。二十五の頃だな。

忠作

あの頃は美術の道ば挫けて、将来が何も見えてなかったから。

俊吉

んだばって、なへ〔なぜ〕。

忠作

お父さん、泣いてたな……

俊吉

オラだって泣いてるよ。商工会という立場上、口が裂けても、こんな馬鹿な戦争で死ぬな、とは言えないど。武運長久を祈ると言わざるを得んがな、しゃんべればしゃんべるほど、唇寒しだ。

菊谷

私もです。津軽から旅立つ若者たちを故郷の英雄として、日々、鼓舞して報道している立場上、表立っては言えません。しかし、ここで死ぬばまいね〔いけない〕。

……

俊吉

だいたい無茶な話なんだ。あの広大な満州を、わが国だけでコントロールしようという発想が。そのうち大國の介入を招き、大戦争に膨らむど。

忠作

オラは事業家だから、満州は大事だよ。しかし、栄蔵はそれ以上に大事なんだって。津軽が生んだ最先端の芸術家だど。東京をパリやニューヨークに負けない文化都市に変えるのは、この男だよ。その値打ちを理解しねばまいねんだって。いいか、栄蔵、お前は帝國軍人なんかじゃなく、レヴィウ人として、この戦争、見で来いよ。そして必ず生きて帰って、見だモノすべてを舞台芸術に活かすんだ。

菊谷

……

お父さんは栄蔵さんに本当に期待してんだ。「何であれ、続けたら、続けたら、何が一人前になるべえ……」て。一人前どころでねえもんな。東京の雑誌さ、しよっちゅう名前見るんだから。

海次郎

そこにトキと浜子が酒などを持ってくる。

トキ

失礼します。今、若い兵隊さんが、訪ねてこられたんですが。菊谷伍長の班の方だって。

菊谷

なんだべ？

忠作

構わねえから、通しなさい。

トキ

かしこまりました。

とトキはさがり、浜子が配膳をする。  
酒を汲み合いつつ、

菊谷

すみませんが若い兵隊の前では、今のような話は控えて頂けますか？

忠作

伍長と言う立場もありますんで。

俊吉

分かってるよ。

一同

乾杯。

菊谷

乾杯。

海次郎

海ちゃん、知ってたが？ 伍長は何で伍長か？ 五人の部隊の長だから

菊谷

だ。

海次郎

そのまんまじゃないの。

菊谷

んだ。我が菊谷班もちょうど五人だ。

そこに現れる若い兵隊、松葉高志一等兵と佐々木耕造二等兵。

松葉・佐々木

失礼致します！

松葉

御歓談中、申し訳ございません。

菊谷

おお、どうした？ 遊びに行かんかったのか？

松葉

はい、自分たちはずっと浜町で飲んでおりました。

佐々木

菊谷班で飲んでおりました。

菊谷

班で？

佐々木

はい。結束して、士気をあげるために。

菊谷　　んだが……今夜は多少、羽目を外してもいいんだ。

松葉　　はい、でも自分たちは、菊谷班でけっぱろうと誓い合い。今夜は菊谷班で過ごします。

佐々木　　それで、伍長とも盃を交わしたいという話になりました。集まりに顔を

出して頂けませんでしょうか。

忠作　　んだら全員、ここに呼びなさい。のまへでやると。

菊谷　　いや、しかし……

忠作　　しゃんべりてえことは、もうしゃべった。お姐さん、角の寿さんに行つて、寿司十人前頼んで来てけねが。

浜子　　かしこまりました。

トキが現れて、(※以下、トキと浜子の会話は訛りが猛烈で、

一般人には意味が分からない感じで)

トキ　　寿の大将は、今もう、飲みすぎではばげてるびよん。

浜子　　握れねえ感じだったら、どうします。

トキ　　本人は大丈夫としゃんべると思うけど、まいねなと思ったら、頼まねえで戻ってこいへ。

浜子　　へば、急ぎで見えます。

と下がる。

忠作  
俊吉

私は、菊谷の古くからの友人だ。

島内忠作さん。東北石油の社長さんだよ。壮行会の為に、東京から駆け付けて来られたんだ。僕も友人で、東奥日報の竹山と言います。

海次郎

義理の弟の中村です。兄がお世話になっています。

松葉

青森歩兵第五連隊、菊谷班、松葉一等兵であります。

佐々木

同じく佐々木二等兵であります。

松葉

へば、呼んで参ります。みんな、伍長と盃を交わしたがっておりますので。

と松葉と佐々木は飛び出してゆく。

忠作

へば、酒をどんどん持って来て。

トキ

はい。(と下がる)

俊吉

栄ちゃん、慕われてるな。

菊谷

純粹なわけもん〔若い者〕たちだ。彼らを僕が戦場に率いて行かねばならねえんだ。

一同

……

菊谷

島内さんのお言葉は実にありがたいです。しかし、申し訳ないですが、僕は心を切り替えています。招集を受けた、その瞬間から……一応、軍隊経験を持つ者として申し上げれば、レヴィウを思いながら、戦争は出来ません。全身全霊、闘う者になりきらなくては。菊谷栄と言う名前は、東京に置いてきました。

やって来る、菊谷班。松葉と佐々木に加えて、鈴木政重二等兵、泉正太郎二等兵の四人。「失礼します！」

菊谷 早いな……

佐々木 全員、すでに外におりました。

俊吉 おお、来たな、菊谷班か。

泉 はい、菊谷班、泉正太郎二等兵であります。

鈴木 同じく鈴木政重二等兵であります。

海次郎 こちらはねえ。

忠作 もういいよ。ここにいるのは全員、菊谷班だ。楽にしなさい。

俊吉 でも五人でねえの？

菊谷 船水二等兵はどうした？

松葉 あ、船水は、別の集まりに出ておりました、間もなく、合流の予定です。

忠作 とにかく乾杯だ。菊谷班の健闘を祈る。乾杯。

一同 乾杯。

忠作 どうか、菊谷を頼む……てっぺ、飲め。

俊吉 諸君は、この菊谷さんがどういう人か知ってるのが？

松葉 はい、東京で有名な方だと伺っております。

海次郎 エノケン知ってるべ？ 青森でも活動写真が来てた、喜劇王の榎本健一。

一同 その片腕と言われる大作家で。おめえたち、レヴィウ見たことあるが？  
いいえ。

佐々木

自分は津軽から一步も出たことはありません。

泉

自分も田舎者で、想像も付きません。

俊吉

家は農家かね？

泉

はい、農家の次男坊です。

佐々木

同じく農家の三男です。

鈴木

同じく四男です。

松葉

自分はド貧乏の小作人であります。二十歳で志願入隊しました。

忠作

見せてやりたいよ、君たちに。どってんこく「驚く」だろうなあ。

俊吉

はい。

海次郎

私は、昨年、初めて東京で見させて頂きましたが、あの興奮は忘れられません。

忠作

エノケンさんが、面白いことしてさんざん笑わせたかと思ったら、

忠作

魔法のように舞台が変化して。照明がパーッと点いて、踊り子さんたちが、わーっと出て来て。皆、スタイルが良くて、別嬪で。

忠作

おお！

兵士たち

ジャズに乗って踊るんだ。栄蔵は、その音楽の使い方が、ナンバーワンだ。

忠作

そこには双葉屋の女将、君枝が現れる。

君枝

お待ちせして、相済みません。いらっしやいませ……（改まって）此の度は、御出征おめでとございます。

君枝

そこには双葉屋の女将、君枝が現れる。

君枝

お待ちせして、相済みません。いらっしやいませ……（改まって）此の度は、御出征おめでとございます。

君枝

お待ちせして、相済みません。いらっしやいませ……（改まって）此の度は、御出征おめでとございます。

君枝

お待ちせして、相済みません。いらっしやいませ……（改まって）此の度は、御出征おめでとございます。

菊谷と兵隊たち、頭を下げる。

俊吉  
君枝

栄ちゃんの部下の人たちです。  
そうですねか……どうぞごゆっくり。それで菊谷先生、あのね……お嬢さん、おいで、こつちよ。こつち……

荷物を抱えた祭が現れる。

菊谷  
祭

君……どうしたんだ？

君枝

ああ、菊谷さんだー！ いた……菊谷さんだ……探しました。でも探しても探しても、菊谷栄さんはいませんでした……（と泣き崩れる）  
先生ば探して、津軽を三日さすらったそうですよ。この人が弘前駅で、菊谷栄、菊谷栄って、イタコのように叫んでさ。先生の本名、知らなかったのよ。

祭

菊谷さかえさんが、金木に居ると聞いて、行ってみたらデブだオバサンでした。そこからずっと迷子です。

君枝

偶然、通りかかっていがった。一文無しで、くさわらで寝でたつて。

祭

危うきところを救出して頂きました。あの……あの……（必死に涙をぬぐい）私、伝令として参りました！

菊谷

伝令？

祭

はい。（荷物を差し出して）これ、一座の皆さんから、菊谷さんにお手紙やお届け物です。菊谷さんが、何も言われず、突然、いなくなっ

菊谷……  
まあ、そうか……  
わざわざ、東京から。

俊吉

はい、軍隊では手紙が破られてしまいますから。

兵隊たち

祭

俊吉

祭

忠作

祭

んで君はいつたい誰だんだ？  
はい！ 申し遅れました！ 私は劇団ピエール・ブリヤント、ダンシン  
グチームの北乃祭と申します。今年の5月、初舞台を踏ませて頂きまし  
た。

海次郎

祭

忠作

祭

忠作

祭

忠作

祭

菊谷

あんた、津軽か？  
あ、はい……大鰐です。  
恋人だが？  
へ？

菊谷の恋人か？

めめ、滅相ありません！ 恋人は、幸子さんです。

幸子さん？

ニューヒロインの歌川幸子さんです。

おい、君っ！

祭

いいんです。それはもうバレてますから。皆さん、とっくにご存知です。そして、お二人のラブがこのように切り裂かれたことに、深くハートを痛めてるんです。

菊谷

は？

幸子さんから、とても大事な物を預かって来てるんです……これが本日一番のお届け物で……

そして大事な預かり物を届けようとするが、一つカバンがみつからず……

祭

アレ、アタシのカバン……大事な物が入った、アタシのカバンは……カバン……カバン……えっと、あ……駅の便所！ 駅の便所！

と祭、飛び出してゆく。

君枝

こんな夜中に、危ねえよ。

菊谷

おい、祭ちゃん！

俊吉

おめえたち、悪いが、あの子の側に付いててやってけれ。

佐々木

はい！

鈴木

自分も行きます！

泉

自分も！

忠作

おお、頼もしいぞ。ダンシングガールを護衛せよ。

佐々木・鈴木・泉

はい！

と三人も祭を追いかけて行く。

菊谷

お騒がせして、すみません！

君枝

本当に、お祭りみたいな子だの……先生、あの子、クビにしないであげて下さいな。ここ来る途中、そればかり心配して。津軽弁が通じるお前が行けって、先輩たちに命令されたそうです。

海次郎

通じて、迷子になったけどな。

菊谷

そそっかしい子なんです。すみません……

君枝

あの子、お腹空かしてたから、何か用意しましょうね。兵隊さんもお若いし……（と空いた器など片付けつつ、下がる）

菊谷、渡された荷を解く。

手紙や本、レコードなどの山。

菊谷

……

俊吉

栄ちゃん、何も言わず、突然消えたのか？

菊谷

うん、切り替えねばまいねと思ってさ。本番間近だし……ケンちゃんとも行き違いで会えなかったんだ。

一同

……

忠作

お、おめえこれレコードか。(レコードを見て)「ラプソディー・イン・ブルー」か……。

菊谷

俳優に貸してたヤツです。今、ここで返されても、困るだけだな……

忠作

一等兵の君。女将に言っつて、蓄音機を借りて来てくれ。ジャズを聴こう

じゃないか？

菊谷

いや、それはもう。

忠作

いいべな。頼む。

松葉

はい。(と去る)

忠作

切り替えられやしねえよ、人間、そんなに簡単に。

俊吉

んですよね。

忠作

恋人だっているんでねが。

菊谷

まったく、おしゃべりな……

海次郎

なんもなんも、聞いて良かったです。田中の家も、菊谷の家も、嫁はど

菊谷

やしたつて、それが一番の関心事でさ。

俊吉

オイ、嫁だなんて、そんなんでねえど。

菊谷

相手は女優が？

忠作

ああ、しかもうちの一座だ。本来、座内恋愛はご法度なんだ。

菊谷

そんなもん、誰も守っちゃねえだろ。

俊吉

まあ、そうですが……わ〔俺〕は新人の教育も受け持つてるから。しめ

菊谷

しがつかね。

俊吉

とつくにバレてるつて、新人が言つてたぞ。

菊谷

それがシヨックだ……

海次郎

でも、少し吾妻しくなりました。栄蔵さんにお相手がいるって聞いて。

そこにトキと松葉が蓄音機を抱えて来る。

俊吉

美人が？

菊谷

ああ。ケンちゃんと、次のヒロインに育てようって。わの一番弟子だ。

俊吉

一番弟子に手を出したのか。

菊谷

面目ね。

俊吉・海次郎・忠作

(笑う)

菊谷

座内では初めてなんだよ。

海次郎

それがなして、幸子に限って。

菊谷

幸子って……知ってるのか、海ちゃん。

海次郎

知らないよ。今、懸命に想像してら。

菊谷

舞台上に熱心な子でな。こういう世界は、ただ綺麗なべべ着たいって。い

い加減なやつも多いから。それが俺の話、一言も漏らすまいって、一所懸命聞いてた。こつちも熱が入るよ。他の子たちが帰っても、遅くまで

ずっといるんだ。そのうち、めんこくなつた。

めんこくなつたか。

なつた。

俊吉

めんこいか？

菊谷

しつこいよ。

俊吉・海次郎・忠作

(笑う)

菊谷 松葉一等兵！今夜見聞きしたことは、誰にも言つなよ。

松葉 はい。しかし……

俊吉 しかし、何だ。ここでは、しゃんべりしたいこと、しゃべっていいんだぞ。

松葉 伍長殿の思わぬ人柄に触れられて、嬉しいであります。自分は軍隊しか知らねえ男なので……

俊吉 君、いい人はいねえのか？  
松葉 妻がおります。

俊吉・海次郎 妻……

松葉 はい、支那との戦闘が始まって先月、少佐殿のお勧めで祝言を致しました。

海次郎 新婚でねが。いんだが、奥さんと過ごさなくて。明日から自由はねえんだべ。

松葉 妻は軍人の娘ですので、覚悟してます。今は、共に戦う戦友と過ごす時間が大切です。

その時、聴こえて来る『ラプソディ・イン・ブルー』。

俊吉 これが『ラプソディ・イン・ブルー』か。

忠作 ガーシュインだ。アメリカ人。

俊吉 題名だけ聞いてましたけど、こんなレコードどこで手に入れるんだ？  
忠作 栄蔵は、外航船の船員に頼むんだ。じえんこ渡して。

俊吉

うだでな……

忠作

これほどミュージックに精通してる作家はいねえだつて。なへ、そんな男をさ……

一同

……

一同、聴き入る。

菊谷

松葉、ジャズは初めてか。

松葉

はい、音楽なんて、祭のお囃子しか知らねはんで。

菊谷

祭なんだよ、ジャズもレヴィウも。その時だけ、生活の辛い時間を忘れて、騒ぐべ。同じなんだ。ただ、東京は故郷を捨てた人さ集まりだから、新しい祭を常に欲しがっているんだ。

そこに戻って来る祭、佐々木、鈴木、泉。

赤いカバンは無事に祭に抱かれています。

佐々木

有りました！

俊吉

早かったな。

憲兵上等兵の野路と女将・君枝も現れる。

泉

駅での忘れ物を憲兵上等兵殿が、確保して下さっております。

野路

今、ちようどお届けにあがろうとしていたところでき。駅での忘れ物の中に、菊谷伍長殿の名があるからと、隊に知らせがありました。

菊谷

それはお手間をおかけ致しました。

野路

いえ、聞けば、たいそう大事なものだそうで。無事に戻って良かったです。

祭

ありがとうございます。

野路

ちよつと、はばかりお借りして宜しいですか？

君枝

ええ、どうぞ。

野路

今夜は一連隊、どつと町に繰り出しておりますので、見回りが大変で。

菊谷

ご苦労様です。

野路

へば、ちよつと失礼します。

と野路は、用足しに出る。

君枝

いがあったね、みつかつて。

祭

はい。

君枝

親切な憲兵さんだ。

俊吉

何か破られてつか？

祭

いいえ！ 軍隊が手紙を破ると言うのは、誤った情報だと、帰ったら厳しく伝令します！ あの……菊谷さん。

菊谷

ん？

祭 私、クビでしょうか？ 大事なお稽古と本番に穴を空けてしまいました。

菊谷 ああ、感心は出来ねけど皆に言われて来たんだろ。  
はい、そうです。

菊谷 今回は許して頂くよう、会社宛てに僕が一筆書くよ。

祭 ああ、良かった……ありがとうございます。

佐々木・鈴木・泉 おめでとうございます！

祭 これでダンスが続けられます。やったー！

祭、兵隊たちと喜び合う。

祭 あ、これ……（音楽を聴いて）『ラプソディ・イン・ブルー』だ。

忠作 さすがだな。知ってるのか？

祭 はい、菊谷さんが、レッスンの時、聞かせて下さいました。エレガントでありながら、ブルーです。

忠作・俊吉 おお。

祭 そうだ、先生！ いや、菊谷さん……

俊吉 どうした、先生でねえのか？

祭 先生と呼ぶと叱られます。ピエール・ブリアントでは、先生は榎本先生、お一人です。菊谷さん、踊っていいですか？

菊谷 え？

祭 ここで踊って良いですか？

菊谷 　　ここで。

祭 　　はい。皆さんが、ダンスを見たことないって言うんで。一度、見てみた  
　　いって。ね？

佐々木・鈴木・泉 　　……

祭 　　え、さつき見たいと言いましたよね？

鈴木 　　あ、はい……

俊吉 　　お、何だが、菊谷班、この短時間に、見事に目標接近をはかったな。

佐々木・鈴木・泉 　　……

鈴木 　　少し、お話させて頂きました。

佐々木・泉 　　申し訳ございません！

俊吉 　　いいんだ、菊谷班はその方針で良いぞ。伍長殿を大に見習ってな。

菊谷 　　おい、俊ちゃん……

忠作 　　ああ、それはいいにや。君、彼らにぜひ見せてやってけれ。

祭 　　私は、セリフは訛るのですが、ダンスは訛らないので。へば……あの、  
　　ステッキないですかね？

君枝 　　ステッキ？

祭 　　なければ、なにか、棒で。

君枝 　　（座敷の外に）浜ちゃん！ お客様の忘れ物で、ステッキあったでし  
　　よ。ねばなんか棒で。

そして祭、荷物の中からレコードを探して用意する。

その間に、野路も戻って来る。

野路

賑やかに、お楽しみですね。

菊谷

すみません。

野路

いやいや、今夜は良いんです。これからの大遠征を前に、大いに英気を養うようにと、工藤隊長のお計らいです。一つ、青森市内から出ないこと。一つ、起床ラッパが鳴る前に全員帰還すること。それ以外は自由にしてよし、今夜は大いに跳ねて来い、というお達しです。

海次郎

跳ねて、来いか。

俊吉

先日、取材でお会いしましたが、工藤隊長は、なかなかの豪傑だ。

浜子が、竹刀を持ってくる。

浜子

これでよろしいですか？

君枝

え、竹刀。

浜子

さつき竹刀ってしゃんべりませんでした？

君枝

青森市内って言ったんだよ。これ竹刀でねえか。青森市内。竹刀。市内。竹刀。

祭

いいです、いいです。ありがとうございます……あ。

浜子

え、由紀ちゃん……由紀ちゃんだべや？

祭

あ、うん……なしてここさいるの？

浜子

あたし、ここで仲居してるの。

祭

んだんだな……

浜子

由紀ちゃん、何してるの……

祭

うん、ちよっと東京でね。

浜子

東京……

君枝

何よ、浜ちゃん、知り合い？

浜子

尋常小学校の同級生です。

君枝

ああ、そうなの。

海次郎

あんたも大鰐か。

浜子

いいえ、野内ですけど……

海次郎

でも大鰐だって……

祭

昔です。昔のこと……

君枝

東京の菊谷先生の劇団の踊り子さんだったよ。

浜子

え……

君枝

知らなかった？

祭

あつ！ 忘れてた！

君枝

あら、今度はなぬ？

祭

はい、私としたことが、最も大事な伝令を忘れていました。

君枝

あらあら、大変だ。それで、思い出したの？

祭

はい。謹んで申し上げます。戦場に行ったら……（所作付きで。パフォー

君枝

マンスして）「恋しい菊谷さん、どうか死なないで。鉄砲の玉の来ない

祭

所でしゃがんでいてね」

一同

……

祭

（調子に乗って）「鉄砲の玉の来ない所でしゃがんでいてね」

野路 オイコラ、貴様ー！ 何だ、それは！ この無礼者が、今、なんてしゃ

べった！

祭 ……

野路 一死報国を以て、今まさに戦場に向かわんとする帝国軍人に向かつて、

しゃがんでおれとは何事だ！ しゃがんでおれ、とは！ この非国民、

そこに直れ！ 直れ！

祭 ……（震えて動けない）

野路 オイ、そのこの二等兵、この非国民に、一死報国の意味を教えてやれ。

え……あの……一死とは……

野路 （鈴木を殴り）なんだ、それは！ 覚悟が足らねえからだ！

申し訳ございません！

野路 オイ、そのお前は！ 一死報国じゃ！

一死報国とは、命を捨てて、お国の為に尽すことであります！

野路 おめえは、命を捨てる覚悟だな。

佐々木 はい！ お国の為、故郷の為に、この命をお捧げ致す覚悟であります！

野路 おめえたちは！

松葉・佐々木・泉 お捧げ致します！

野路 聞いたか！ これが帝国軍人の覚悟だ。おめえは今、この気高き、ます

らおの精神を愚弄したのだ。両手を付いて、お詫びしろ！

祭 申し訳ございません……

野路 なづきつけろって！（と頭を床に付けさせる）

祭 申し訳ございません！

菊谷

あの……憲兵殿、申し訳ございません。私の教育不足であります。この者は、私の教え子であります。

え……

菊谷

東京の劇団の研修生で。私に、届け物を持って参りました。

野路

教え子……

菊谷

はい。大変申し訳ございません。今後、このようなことがなきよう、しっかりと指導して参ります。

野路

満州北支に於いて、ついに戦闘が開始された今、時局は極めて重大な局面を迎えております。我が帝国軍はもとより、銃後を守る国民全体に気の緩みは断じて許されるものではありません。しっかりとしたご指導をお願い致します。

菊谷

はい。そのように致します。

野路

ここに居るのは菊谷班ですか？

菊谷

はい。そうです。

野路

点呼を取らせて頂きます。(と名簿を見て) 菊谷班、松葉一等兵。

松葉

はい。

野路

泉二等兵。

泉

はい。

野路

佐々木二等兵。

佐々木

はい。

野路

鈴木政重二等兵。

鈴木

はい。

野路 船水二等兵。

兵隊たち ……

野路 船水二等兵はどうした？

松葉 船水は、別行動をとっております。

野路 どこさ行ったんだ？

鈴木 中学の同級生たちと、食事に行きました。

野路 どここの店だ。

鈴木 それは……わかりません。

野路 菊谷伍長はご存知ですか？

菊谷 すみません、把握しておりません。しかし、市内を出ないよう、伝えてあります。

佐々木 市内です。市内におります。

野路 それは本当か。先刻、某二等兵に脱走の企てが露見したんだ。船水二等兵は大丈夫だろうな。

佐々木 船水は大丈夫であります。

泉 はい、船水に限って、脱走など有り得ません。

鈴木 はい、そうです！（と声が裏返る）

野路 おい、おめえたち、何か隠していないか……挙動が怪しいぞ！

兵隊たち ……

松葉 憲兵上等兵殿に申し上げます。申し訳ありません。自分は今、嘘を付きました。

野路 なぬ……

松葉 船水は、今日、十和田に行きました。

野路 十和田……

松葉 はい。二十二時には戻って来る約束であったのですが、少し遅れているようです。

野路 汽車で行ったのか？

鈴木 自転車であります。

野路 おめえたちは知っていたのか！

松葉 このことは、二等兵たちには知らせておりません。すべて私の独断であります！

佐々木 自分も承知しておりました。松葉一等兵の発言は、我々を庇おうとしての発言であります。

泉 自分も知っておりました！

鈴木 自分も知っておりました！

野路 伍長殿、これは大問題ですよ。

菊谷 はい……

松葉 伍長殿は、何もご存じありません。これは我々が独自で行った軍則違反であります。

菊谷 それで船水は十和田まで、何しに行ったんだ？

松葉 小学校の恩師に、出征のご挨拶をしに行きました。病で伏せっておられて、動けないのだそうです。

野路 十和田は青森市内か！

松葉 十和田は市外であります。

野路 馬鹿者っ！（と松葉を殴る）

……

菊谷 そんなに大事な恩師なのか？

佐々木 はい。船水は、どうしても会いに行きたいと。

鈴木 運動靴を買ってくれた、女先生だそうです。

野路 は？

佐々木 船水の家は貧しくて、その上に母親がなくて、大変苦労したのです。

泉 船水にとって、母のような優しい先生であったそうです。

野路 もういい！ やめろ！

……

野路 違反は違反だ！ 連帯責任として、今この時を以て、菊谷班の自由行動は終了とする。これより全員、宿舎に帰還せよ。

兵隊たち はい。

菊谷 私も戻ります。

野路 そうして頂けますか。おめえたちは、厳しく罰するからな、覚悟しろ。

トキ あの、憲兵様……

野路 何だ？

トキ 後生でございます……（と手を付く）今夜一晩だけ、どうかこのおわけ

野路 え兵隊さんたちを、見逃してあげてくださいませ。

トキ アンタ、誰だ？

野路 私はここの、仲居です。

トキ 仲居がでしゃばるな。

トキ

はい、でも……今のお話聞いて、涙がこぼれて止まりません。せめて一晚、このまま過ごさせてあげるわけには参りませんか。

野路

軍には軍の規律があるんだ。

トキ

それはよく承知しております。だけど、これからお国に命を捧げる人たちです。この一晩ぐらい、笑わせてあげることが出来ませんか？

野路

ああ、出来ね。こらんどにその資格はね。せつかくの工藤隊長のお心をこらんどは踏み躪ったんだ！

トキ

何も踏み躪ってないでしょう！ 恩師に会いに行く、って。立派な心掛けでしょ！ その戦友を庇う、この人たちもいいわらんどでしょ！

野路

黙れっ、仲居のババアが口出するな！ おい、女将。従業員しっかり教育せい。ばあさん、あんたアカか！

トキ

私は軍人の妻です。

忠作

おい、君、もういいよ。やめなさい。

野路

は？

忠作

それぐらいにしまえ。

野路

な、何です。

忠作

今夜はこのまま引き取ってけれ。後のことは、私らで処理するから。

野路

はあ？ こんな不祥事、看過できるか！

忠作

看過してくれ。

野路

何を偉そうに。アンタは、何者だ。

忠作

私は東北石油の島内だ。名刺、渡しておくよ。(と名刺を出して) 工藤隊長とも懇意にさせて頂いている者だ。問題があれば、私が直に隊長にお詫びに伺う。

野路

……

忠作

君は？

野路

青森第一憲兵隊、憲兵上等兵の野路と申します。

忠作

安心してけろ、君に迷惑はかからぬように配慮するから。この菊谷は私の大事な友人なんだ。どうかもう少し、別れを惜しませてくれ……

野路

しかしこれは……私の任務であります！

俊吉

分かっているよ、よく分かっている。お国の為に、ご苦勞様です。

海次郎、君枝も頭を下げる。

野路

伍長殿、もしも船水二等兵が戻らなかつたら、どうなさるおつもりですか。

佐々木

船水は絶対に戻ります！

野路

黙れ！ 貴様に聞いてね。菊谷伍長に聞いたものだ！

菊谷

その時は、どのような懲罰も、私がお受けいたします。

野路

失礼致します。

と野路は去る。

忠作　　こういう強権は、なるべく奮うまいと思うんだがな。これだば、軍隊と

同じなものな……

俊吉　　いいえ、島内さんがいて、助かりました。

トキ　　出過ぎたことを申しまして、堪忍してけるじゃ。

君枝　　トキさんは、戦争未亡人なんです。旦那様が陸軍の軍人さんでいらしたんです。皆さんと同じ、青森の第五連隊で。

野路　　……

俊吉　　失礼ですが、それはどちらの戦地で？

君枝　　それが戦地でないの。三十五年前の八甲田山。あの雪山行軍で、大勢亡くなつたでしょ。

俊吉　　はい、確か百九十九人。

君枝　　その中のお一人でいらしたの。結婚してまだ半年でさ。お腹に赤ちゃんがいたの。

トキ　　犬死と言われた八甲田ですけどね。ひとつも恨んではおりません。夫

は、職業軍人でしたから。故郷の山の訓練で亡くなったというのが何とも無念ですけど。それも軍の命ですから。

ただね、軍人さんだって人間だから。人間が、精神を追い詰めて追い詰めて、厳しい戦闘に臨むんだから。せめて一晩ぐらい……失礼致します。

とトキ去る

松葉 伍長殿……大変申し訳ございません！（全員土下座）

菊谷 ああ。一言相談して欲しかったな……

松葉 伍長殿に、ご迷惑をかけてはならぬと思い、黙っております。

菊谷 それで、船水はどうなってるんだ？

松葉 それは分かりません。

海次郎 十和田に自転車でつてな。いくら何でも無茶だ、それは……

佐々木 しかし、何があるうと絶対に帰ってきます。船水は我々を裏切る男では

ありません！

泉 そんなです。我々は共に戦地に向かい、共に戦い、死ぬ時も一緒だと固く

誓い合っております。

一同 ……

俊吉 気分を変えよう。

忠作 今夜は楽しく過ごそう。仲間が帰って来るんだろ？

兵隊たち 帰ってきます！

忠作 それで、ジャズは？ お嬢さん、ダンスはどうなってるんだ？

祭 あ、はい！ でも……今踊って、怒られたりしないでしょうか？

忠作 大丈夫だ。憲兵は去った。自由にやりなさい。

祭 へば……少々お待ちください。

と祭、支度をする。

君枝

飲みましょう。

トキ

はい！

トキ、笑顔で戻ってきて、君枝、浜子、男たちに酒を注ぐ。

忠作

へば……友情とジャズと今夜の笑顔に。乾杯！

一同

乾杯！

それぞれに飲む。

俊吉

以前、エノケンの取材をしたのさ。昔話もしてくれてさ。関東大震災の時、浅草は全部焼けて、人も大勢亡くなったけど、二、三日後には、ゴザ敷いて焼け跡で芸を見せてた芸人が現れたし、それを見て喜んでる人もいたんだって。どんな時にも、演じる人間と、観る人間はいるんだ。芸が消えるのは、お上が、禁じた時だけだぞ、って。あの時のエノケンの顔は迫力あったな……

菊谷

嘶家の志ん生は、震災の時、酒がなくなるのを心配して、町が燃えてるのに、酒屋に走ったってな。

忠作

それが人間だ。エノケンも志ん生も、哲学者だよ。死ぬために、生まれて来るのではねえど、人間は。生きる為なんだって。それもただ食って、寝るだけが生きることではねえ。私なんか、劇場で良き歌舞音曲に包まれて死ぬるなら、爆撃死で大いに結構だと思ってるよ。

俊吉

新聞記事には出せませんが。もう、そつたら真実も。

忠作

へば、戦争を止めろという話なんだ。しかし今、満州を失えば、我が国の経済は立ち行かんね。東北はますます飢える。だはんで戦争を嫌いながら、容認しとる。私も大いに矛盾してる。せめて死ぬのは、遠い他人ばかりでいてくれ、と言うのが本音だ。酒注いで。

……

しかし貧しい東北の男たちが真っ先に狙われるんだよ、兵隊集めに。

……

悪いな。どうしても文句が出てしまう。お嬢さん、まだか！

はい、ただ今！

忠作  
一同  
忠作  
一同  
祭

と現れる祭、調達したステッキとハットでエノケン風に立つ。

おお！

へば、はなはだ未熟ながら、榎本先生の十八番をば。そのレコードをかけて下さい。

一同  
祭

一同、拍手。

海次郎がかかる蓄音機から、聴こえて来る『ダイナ』

祭、その場で陽気に歌い、踊り始めるが、たちまち針が飛ぶ。

祭

あ、失礼致しました。もう一度、やります。

とやり直すが針が飛ぶ。

針が飛んでまうわ。

祭 君枝  
ああ、もう！（と癩癩を起こし）レヴィウダンスは、エネルギーを出してやらねばまいねの！ でもエネルギーで針が飛ぶの！ どうせばいいのさ！ あ……そんだ！

……

祭 菊谷さん、レッスンのようにしてください。

俊吉 おお、それはかえって面白いな。

忠作 栄蔵、披露してけれ。

菊谷 参ったな……へばやるよ。ワン、ツー……

と菊谷がリズムを取ると、それに合わせて祭は歌い、踊り始める。

M2 『エノケンのダイナ』（詞 サトウ・ハチロー）

ダンナ のませてちようダイナー

おごつてちようダイナー

たんとは呑まない（ね、いいでせう）

ダンナ 盃ちようダイナー

コップなら尚結構  
こいつはいける

酒はうまい うまい 少し酔うた  
酔うたら さあ来い

ダンナ のませてちょうダイナー  
けちけちなさんな かけつけ三杯

ダンナ のませてちょうダイナー  
おごってちょうダイナー  
たんとは呑まない(ね、いいでせう)

ダンナ 盃ちょうダイナー  
コップなら尚結構  
こいつはいける

一同、手拍子。

そのうちに菊谷にも熱が入り、ふたりで、アドリブのスキヤツ  
トの掛け合いなどもやる。

島内と俊吉たち、大盛り上がり。  
その盛り上がりのうちに、終了。

「双葉屋さん！」と言う声が聞こえている。

君枝 お客さんかな、こんな時間に。浜ちゃん、見て来て。

浜子 はい。(と去る)

俊吉 たいしたものだな。おめえたち見たか、伍長の雄姿を。

兵隊たち

忠作 はい。

祭 アンコールだ、アンコール。

菊谷 はい！ へば、次は何をご披露致しましょう！

祭 おいおい、もういいよ。

祭 ちよつと準備をするので、アンコールの前に、アルコールをお楽しみください。

そこに浜子が戻ってる。

浜子 由紀ちゃん、逃げで。

祭 え？

浜子 アンタのお母さ。由紀がここさいるべ、って。

祭 ……

浜子 裏口から逃げて。アンタ、捕まるよ。

祭、血相を変えて座敷を飛び出してゆく。

俊吉

おい、何事だね、これは……

君枝

トキさん、行ってきて。

海次郎

俺も行くよ……

浜子

まいね、このまま逃がしてあげてくれ！

君枝

え？

浜子

由紀ちゃんば助けてくれ。

トキ

見えます……（と出て行く）

浜子

（泣く）

君枝

浜ちゃん、何があったの？ 泣いてたら分からないよ。

浜子

由紀ちゃんは、逃げてるんです。

君枝

逃げてる？

浜子

はい、奉公先から逃げ出して。ずっと行方不明で、大騒ぎになってたんです。何か連絡ねがったかって、私たち同級生は何度も聞かれました。

君枝

そうなの……いつのこと。

浜子

三年前です。

忠作

それで奉公先と言うのは？

浜子

秋田の川端で……

忠作

ああ、そうか。

浜子

由紀ちゃんが連れていかれた時、うちのお父ちゃんが、てつぺ怒って。

なんぼ食うに困っても、娘ば女郎屋に売る親なんか、人でなした、鬼だて。由紀ちゃんが不憫でなんね、て……

その時、祭の叫び声が通りに響く。  
「まいねじゃー!! まいねじゃー!!」

暗転。

同刻、新宿第一劇場。

終演後の舞台。

ピアノの伴奏が響くなか、踊り子たちがダンスの稽古をしている。

幸子の声が響く。

幸子

足を揃えて！ 視線を下げない！

一同、疲れて、倒れる。

幸子

さあ、もう一回、頭からさらいましょう。

サハラ

ちよちよ、待つて、一休みしよう！

フジ子

もう足が上がらないよ。バンバンだつて……

幸子

でも、まだゼンゼン、揃つてないし。

池ちゃん

ごめん……

幸子

……

池ちゃん

明日、記者招待だもんね……

フジ子

だからつて急に上達はしないよ。

サハラ

そうだよ。先輩たちも言ってるよ。批評なんかどうだっていい。お客を  
楽しませれば。

フジ子

うちの舞台は芸術じゃないからね。

幸子

分かっています。けど、今回だけは、何としても、良い記事を出させたいんです。菊谷栄の新作が最高に良い、つて。菊谷の才能が溢れている。

『ノウ・ハット』は傑作だ！

池ちゃん

そして、菊谷の育成した若手たちが、大きな可能性を示した！ ああ、

もう……ごめん！！

サハラ

そりゃ、アタシらだって青森にも満州にも、評判を届かせたいよ。

フジ子

分かった、やるから、ちよつとだけ休ませて、ねっ、ああ……（と倒れる）

そこに、人影が現れる。

座頭の榎本健一である。

フジ子

あ、先生……

一同

お帰りなさいませ。

フジ子

活動の撮影ではなかったんですか？

榎本

ああ、そうだよ。監督を拝み倒して、3日徹夜でクランクアップだ。キクさんの新作に立つたためにな。

一同

先生……

榎本

拍手喝采、巻き起こそうじゃないか。若い頃、キクさんと語り合ったもんだ。どんなに遠くにいても、聴こえて来るような拍手喝采を起こそうぜ、つて。

幸子  
榎本  
一同  
榎本  
一同

遠い未来にも届くような拍手喝采を巻き起こそう。  
そうだよ、そうだ……

……

みんなを集めてくれるかい？ 稽古するよ。  
はい！

暗転。

支那ソバの屋台のチャルメラが聞こえて来る。  
 双葉屋、座敷。

しばし後。

座敷には菊谷、俊吉、祭、そして祭の母・イネと伯母・たみ。

イネ どれだけ人様に迷惑かけたと思ってるんだ。

たみ アンタのおとっちは、借金返すために、ビツコ引きながらドカタさ出  
 たんだよ。

イネ 借金取り何度も来て、怒鳴り散らしたんだ。

祭 ……

たみ なへ、連絡の一つも寄こさなかったの？

祭 そつたの……知らせたら、連れ戻されるべな！

たみ なんだばって、生きてんだか、死んでんだか。

祭 山田由紀はもう死んだ。

イネ おめえは、またそんな強情を。

祭 嫌だからね、わはもう二度とあんなどこさ行かねはんで。

イネ わがままを言うな！ おめえだけでねえんだ。小作の家では、娘はみんな奉公に出て、親孝行してるんだ。

祭 奉公でね。人身売買だべさ。

イネ 全部、引き払って津軽さ帰って来い。

祭  
イネ  
祭

まいね。  
ダメだ、帰って来い。  
嫌だ！ まいねじゃ！

君枝が、心配して顔を出す。

君枝  
俊吉  
君枝

失礼します。大丈夫ですか。  
ああ、申し訳ありません。

……

祭  
イネ  
祭

これ以上、ご迷惑だから、続きはオバサンとこさ行って話すべ。な？  
わは東京さ帰るんだ。

俊吉  
イネ  
祭

このはんかくせいもの、いい加減にしなな！（と祭を叩く）  
（庇って）ちよっとお母さん、暴力はやめましょう。叩いちやダメで

イネ

口出ししねえで下さい。これはわの娘なんです。

祭

違うから。アンタの娘はもう死んだ。

イネ

黙れって！ 行くど。（と腕など掴む）

菊谷

ちよっとおやめください。とにかく、落ち着いて。どうか、私の話を聞

いて下さい。

俊吉

暴力はやめましょう。とにかく、ね。（と二人を引き離す）

菊谷

事情はよく分かりました……その上で、私の立場から、申し上げたいことがございます。先ほども申し上げました通り、私は彼女が所属する東京の劇団の文芸部員です。

イネ

たみ

……  
じゃいこもので、何のことやら。

俊吉

菊谷の劇団は、とても有名なんですよ。エノケンをご存知でしょうか？

たみ

喜劇王の榎本健一。  
お名前だけは……。

イネ

活動写真なんか、見たことねえからな。

君枝

(新聞を持って来て) あのね、コレを持って来ました。一昨年のお正月、東奥日報に出た、菊谷先生の記事です。この写真を見て下さい。ほら、この人でしょ。レヴィウ作家の菊谷栄さん。

イネ・たみ

君枝

……  
嘘じゃないの。本当に偉い先生なの。

菊谷

今日、娘さんがここに居るのは、東京からの使いで、私に届け物を持って来てくれたんです。この用事が済んだら、至急、東京に戻らなくてはなりません。と言うのも、彼女は今、新宿の大きな劇場に出演中なのです。これは極めて大事な仕事です。彼女には責任があるのです。

イネ・たみ

菊谷

……  
そういう意味で、今の彼女は決して自由の身ではありません。劇団とも契約を結んでおります。

イネ・たみ

……

菊谷 三年間の専属契約で、その契約料として劇団は、彼女に三百円を支払っています。

たみ さ、三百円……

菊谷 はい。失礼ですが、そちらの奉公の契約はお幾らでしたか？

たみ 確か、四年の年季で、四百円だっきゃ。

イネ 百五十円しかもらってねえど。

たみ いろいろ差っ引かれたからね。

菊谷 私どもは、娘さんと契約を結んでおります。それが一方的に破棄されますと、当然、賠償の義務が生じます。

イネ え……

たみ 置屋のように年季があるということですか？

菊谷 はい、三年間。

たみ アンタ、何でそんなこと勝手に決めたの！

祭 ……（呆然としている）

菊谷 しかし三百円ですよ。彼女のような新人で、これは極めて破格です。それが成立したのは、彼女に目覚ましい才能があると、劇団が判断したからです。

イネ・たみ ……

菊谷 契約料は、北乃祭をスターに育てる為の先行投資なのです。ですからここで、おいそれと津軽に帰すワケには参りません。

たみ 姉さん。

イネ 頭かちやくちやだ。



大変な苦勞をしたんだな、君は。

……

秋田から逃げて、東京まで来たのが？

川端で、馴染のお客さんが出来て。それが少しヤクザな人で、駆け落ちをしてくれました。

その人とは？

東京に来て、大喧嘩して、それきりです。

その後は……

とても申し上げられません……

……

たまたま浅草で、榎本先生のカツドウを観て、実物が見てみたくなつて。初めて劇場に行つて、レヴィウに心を奪われました。

そうか……

そもそもお祭り好きで、年に一度、跳ねるのだけが楽しみな子供でしたから……菊谷さん！

何だ？

私はピエール・ブリヤントに帰つて良いのですか？

もちろんだ。その為に僕は今、お母さんと話したんだよ。

……

三百円の契約と言うのは？

(首を振る) そんなこと、あると思うか？

だろうな。栄ちゃん、芝居も上手だな。

菊谷

祭

菊谷

祭

菊谷

祭

菊谷

祭

一同

祭

菊谷

祭

菊谷

祭

菊谷

祭

俊吉

菊谷

俊吉

菊谷

かなりドキドキだった……

菊谷・俊吉

ハハハ……（笑い合う）

菊谷

しかしな、祭君。

祭

はい。

菊谷

僕は今、お母さんたちに嘘偽りを語ったとは思ってねえど。僕は今、理想と夢を語った。それはまだ真実ではね。しかし、その理想と夢を、君が実現してくれたなら真実となるだろう。

祭

……

菊谷

いいが、これから三年間、君は死に物狂いで努力しなさい。そして本気でスターを目指しなさい。君がスターになると言っても、今は誰も信じてくれねえだろ。しかし、自分だけはそれを信じて、信じ抜いて努力しなさい。

祭

……

菊谷

厳しい世界だ。十中八九はかなわぬ夢だよ。だが、僕はこの厳しい世界で、夢を実現させた本物のスターたちと仕事をしてきた。皆、最初は無名で孤独だよ。今の君のように、何者でもなかったよ。それが努力を重ねて、運を掴んで、檜舞台に立つんだ。この僕も君ぐらいの歳には、すねっかじりのルンペン青年だった。兵隊になるぐらいしか、世のお役に立つ道はないと思ってたんだ……ココ（胸）に、どれだけの思いが詰ってるか。それが勝負だぞ。

祭

……

菊谷

頑張れるか？ 君はそれを、やり遂げられるかっ！

祭

はい、やります、絶対に！

菊谷

「続けたら、続けたら、何が一人前になるべえ……」（と上着のポケット  
トから札を出し）実家に預けようと思った金がある……君に三百円、貸  
そう。

祭

え……

菊谷

安心しなさい、ほんの一部だ。家への仕送りも必要だろう。

祭

いえ、でもそんな大金は……いけません。

菊谷

奨学金として貸すんだ。スターになれば、そんなギャラ、簡単に取れ  
る。君はスターになるんだべ？

祭

なりません。

菊谷

ならばその暁に、利子を付けて返済しなさい。約束だ。

祭

はい……

と泣く。

ふすまの向こうで、浜子も泣き出す。

祭

浜ちゃん……

浜子

由紀ちゃん！

祭、耐え切れず、浜子とともに部屋を出て行く。

君枝

この新聞ね、菊谷先生がお書きになられた随筆が、とつても素敵で。ずつとつてあつたんですよ。(と読む)「我々のあちやらか喜劇やレヴィウを低級な娯楽と誇る方もいるが、ささやかなる抵抗を試みて申しあげて。たとえばこの浅草の雑踏の中には、恐ろしい罪を犯した犯罪者も紛れているかもしれない。家出人や失業者が行く宛もなく寂しく歩いているかもしれない。そして途方に暮れた彼らは、いつかレヴィウ小屋のドアを開けるかもしれない。ここには彼らを助けるようなものは何もない。ただ彼らとその身を隠すことの出来る暗闇と、ほんの少し自分を忘れていられる賑やかな時間があるだけだ。もしかしたら、彼らはやるせなさに涙ぐむばかりで、一度も笑わないかもしれない。思い出に浸り、じつと目を閉じているだけかもしれない。それでも、たとえばその罪人はこのレヴィウ小屋の中で、それ以上に恐ろしい罪を犯そうと考えるだろうか。家を捨てた人や、仕事を奪われた人たちが、それ以上に誰かを憎もうと思うだろうか……」

若い兵隊、船水二等兵が現れる。

船水

失礼致します。菊谷伍長！

菊谷

おい！ 船水！ よく戻つたな。

トキが、やって来る。

トキ  
兵隊さん、よく帰ってきたね。皆さん呼んできますね。  
菊谷  
お願いします。

トキ、去る。

菊谷  
皆揃って支那ソバ食へに出てるんだ。ご苦労だったな。

船水  
はい。中学の同級生が集まってくれて、新町で飲んでおりました。  
菊谷  
いいよ、もう。全部、バシてるぞ。

は？

船水  
市外に出たんだろ。大事な人に会うために。

バ、バシっているのですか？

船水  
ああ、憲兵殿が来てな。船水はどこだと詰問されたんだ。

それで、すべて話してしまったのでありますか。

菊谷  
ああ。洗いざらいな。

それで、どうなったのでありますか？ 皆、無事でありますか！

船水  
安心しろ。今日のところは特別にお目こぼしだ。その人には、無事に会

えたのか？

船水  
はい。

菊谷  
喜んでいたか？

船水  
はい。

菊谷  
それは良かった……

船水

勝手な行動をして申し訳ありませんでした。戦地に向かう前に、どうしても、どうしても会いたかったのです。

菊谷

ああ……

船水

皆に、相談したら、この機を逃したら、二度と会えなくなるかもしれないからって、行って来いと送り出してくれまして。

菊谷

それで先生は何だって。

船水

え？

菊谷

先生だよ。君が会いに行った。

船水

いいえ病院勤めではありませんが、医者ではなく、看護婦であります。

菊谷

か、看護婦？

船水

はい。近所の幼馴染で、今、五所川原の病院に勤務しております。

菊谷

お前、どこに行ってたんだ？

船水

は、五所川原であります。市外に出てはいけないことは承知しておりますが、彼女が、こちらに来る時間をどうしても作れなかったので。

菊谷

彼女って、幾つの人だよ？

船水

彼女は私より二つ下の、二十二才であります。

菊谷

へえ。

俊吉・君枝

菊谷

……  
もしかして、それは君の恋人か？

船水

それははっきりしてなかったのです、お互いに好意を持っているのは、うっすらと分かっていたんですが。はっきりとしてなかったもので、これでは心残りになると思い、会いに行つて気持ちを伝えて参りました。

菊谷

そしたら？

船水

はい……受け入れてくれました。本日、晴れて恋人になって来ました。

菊谷

んだが。それは、いがったな。

船水

はい！ ありがとうございます。

俊吉

五所川原の看護婦さんだつてさ。

菊谷・君枝

(顔を見合せて笑う)

船水

な、何か問題がありましたでしょうか！

俊吉

いやいや、いいんだ。栄ちゃん、いいんだべ？

菊谷

いいんでねが。

君枝

いいんですよ。いいんです。

船水

……

兵隊たち、松葉、佐々木、鈴木、泉と島内、海次郎、そして祭と浜子が駆け込んで来る。

松葉

船水！ 戻ったか。

船水

ただ今、戻りました！ 大変ご迷惑をおかけしたようで、申し訳ござい

泉

ませんでした。

船水

それで、無事に会えたのか？ れ、例の大切な人に。

泉

ああ、会えた。

船水

それで？

船水

俺の気持ちをしっかりと受け止めてくれた。お陰で、心を確かめ合え

た。

兵隊たち

(歓声)

実は俺たちは憲兵殿に尋問されてな。こちらの島内さんが、助けて下されたんだ。

泉

工藤隊長のお知り合いなんだ。

船水

ご迷惑をおかけしました。

忠作

いいんだ、いいんだ。そうか、よく戻って来たよな、十和田から自転車  
でな。

船水

は？

兵隊たち

(ごまかしながら、喜ぶ)

菊谷

おい、船水の話は、バレてるからな。

松葉

はい。

菊谷

五所川原の看護婦さんの件だぞ。

兵隊たち

え！

菊谷

そこまでバレたからな。

松葉

ご、ご存知なのでありますか！

菊谷

ああ、二十二才の看護婦だ。

海次郎

え、何ですか？

俊吉

今日、彼が会いに行ったのは、病気の恩師などではなかったんだ。

海次郎

は？

俊吉

先程、真実が判明しましてね。相手は若い娘っこです。彼は、恋しい幼  
馴染に、愛の告白をしに行ったのです。

忠作 おお、んだが……それはまた、奇襲攻撃だ。

海次郎 告白か。

君枝 今日告白して、無事、恋人になれたんだって。

海次郎 なんだって、おかしいと思ったんだ。自転車で十和田の山越えて……

うんだば、お前ら、みんなで示し合わせて。

あら、本当に、たまげたわね……

トキ ……

俊吉 そりゃあ女子の為に軍律を破ったというよりさ、恩人の為に走った、と言え、美談になるもんな。

海次郎 やられたな、俺は貰い泣きまでしたんだよ。何て美しい話だって。く

う、色恋か……

松葉 嘘を付いて、申し訳ありませんでした！

兵隊たち (頭を下げる)

トキ んだがんだが。いい夜だったのお。

船水 はい。ただ、少しだけ未練が残ってな、約束時間過ぎてしまった。迷惑

したな〔迷惑かけた〕。

松葉 いいんだ、おめえは帰って来ると信じてた。なあ？

兵隊たち (頷く)

佐々木 船水、正直に言うぞ。わは一瞬だけ疑ったよ。このまま、消えてしまう

んでねがって。なの気持ちを知ってるがらさ。わなら、心が揺れると思

うから。スマン、戦友を疑った、わば殴れ！

船水　　いや、わも正直に言う。一瞬だけ心が揺れた。このまま、消えられた

らどんなにいがべがど〔良いかと〕……軟弱なわば殴ってくれ！

佐々木　な〔お前〕から殴れ。

船水　　なから先だ。

君枝　　もう、おあいこで、良いんでないの？

海次郎　んだ、おめえさんたち、津軽で怪我して、どやすつけ？

一同　　（笑う）

佐々木　良く帰って来た！

船水　　当たり前だ！

松葉　　おい、今から憲兵殿にお詫びに行こう。菊谷班、全員揃っております

と、ご報告すんだ。

佐々木　そうですね。

兵隊たち　行きましょう。

松葉　　島内さん、どうも御馳走様でした。

佐々木・泉・鈴木　御馳走様でした。

松葉　　島内さんに、たくさんご馳走になりました。

忠作　　結局、屋台で、悪かったな……

鈴木　　いいえ、東京のお話は聞けて、とても嬉しかったです。

泉　　はい！ 菊谷伍長の偉大さが、よく分かりました。

忠作　　栄蔵の舞台を君たちに見せてやれないのが、心から無念だよ。

鈴木　　でも、お話伺っただけで、見たような気持ちになりました。

忠作

兵隊たち

松葉

君たち、是非また、会おう……出征兵に言っではいけない言葉かもしれんがね。どうか命を持って帰っておいで。その時は、私が全員招待するから、皆で揃って、栄蔵の舞台を見に行こう。浅草でも、新宿でもな。はい。

これから向かう戦闘に、我々が勝利すればよいのです。百対ゼロで圧勝し、無傷の帰還を果たせば良いのです。

泉  
佐々木

そうです！ 支那のヘナチヨコ軍など、我々が叩きのめしてやります。んだ。凱旋して、胸に勲章を付けて、皆で堂々と伍長のレヴィウを観に行こう。

鈴木

その時は、祭さんも出ていて下さいね。その舞台の上に。んだ、祭さんの活躍もぜひ拝見したいです。

祭

はい。必ず、活躍いたします。大舞台の真ん中に立つ、北乃祭を観て下さい。

鈴木

今日見せて頂いた「ちようダイナ」も、とても素晴らしかったです。戦地で苦しい時には、祭さんの歌声とダンスを思い浮かべて、励みます。

……

おいおい、ここでプロポーズか！

鈴木

まさか、こんなハイカラな東京の女の人に、そんな……  
あたしは津軽の女ですってば！

一同

(笑う)

でもお褒め頂いて、とても嬉しいです。今後の励みと致します。  
ああ、若いわ。楽しい夜ですわね、菊谷先生。

君枝

菊谷 はい、これで自由の夜は終わりだ。明日から、切り替えて行くど。

兵隊たち はい。

菊谷 その夜のおわりに、船水、皆さんにご迷惑をおかけしたお詫びにひとつ白状しろ。

船水 はい！ 何を、でありますか？

菊谷 今日、恋人になったと言うが。いったい何をしてきたんだね？

船水 は？

俊吉 おお、いいね、それは聞こう。

船水 ここで言うのでありますか。

菊谷 んだ。

松葉 船水、言え。

兵隊たち (はやし立てて) 言え、言え！

海次郎 笑顔で、締めよう。

菊谷 んだ。さあ、白状しろ。何をして恋人になったんだ。船水二等兵！

船水 へば……彼女の勤務が忙しく、近くの公園で会えたのが、九時近くでした。

忠作 おお、さぞ暗かろう。

船水 はい、星空が鮮やかでした……

一同 おお！

船水 本当に話すのでありますか？

佐々木 いいから、続ける！

船水

明後日の出発を伝えて、今までの思いを伝えました。そしたら、彼女も同じ気持ちだったと……ベンチに座って、昔の思い出など話しました。

一同

……

船水

そのうち乗合の時刻になってしまって……ふたりで駅に向かいました。

いよいよ、乗車する時に、手を握り合いました。幼馴染みなので、子供の頃に握ったことはあつたはずなんですが、大人になった彼女の手は白くて柔らかかったです。そして、手を振り合つて別れて来ました。以上であります。

兵隊たち

(喝采する)

松葉

へば、我々はこれで……

君枝が、トキと浜子を並ばせる。

君枝

お国の為に、ご苦勞様でございます。皆様の武運長久をお祈りいたします。

トキ・浜子

お祈りいたします。

君枝

青森歩兵第五連隊、菊谷班の皆様！

君枝・トキ・浜子

万歳！ 万歳！ 万歳！

兵隊たち

ありがとうございます。

菊谷班の若い兵隊たち、去る。

トキと浜子が見送つてゆく。

俊吉

君枝

祭

君枝

菊谷

君枝

菊谷

忠作

菊谷

祭

俊吉

忠作

菊谷

一同

菊谷

平時であれば、ただただ笑顔の話なのにな。戦争が、涙に変える……

せつかく心が通じ合ってもね。祭さんが言ったでしょ。「鉄砲の玉の来ない所でしゃがんでいてね」て。許されない言葉だけど、それが正直な気持ちよ。東京のお仲間たちの、伝言なのよね？

そうです。

あんな素晴らしい若者たちが。これからやりたいことも、たくさんあるだろうに。

それは……セリフなんです。

え？

台本の中のセリフです。『最後の伝令』と言う古い作品で。私書いたセリフなんです。

おお、んだが。栄蔵の出世作だよ。

祭ちゃん、さっきは悪かったな。オラのセリフで、懲らしめられてな。

(首を振る)

伍長殿の生んだ、名台詞であったか。

こっちは笑えない喜劇だ。

このセリフも、そろそろ舞台で使えなくなるだろう。こうして大事なセリフが、この世界から一つずつ消されてゆくんだ。

……

でもさ、女将さんの言う通り、それは人の本音だよ。いくら禁じて

も、人間の心に自然に湧き出てしまう気持ちだよ。

一 同  
菊谷

……

恩人の先生の為なら美談で、恋しい女子の為なら、不謹慎だなんて、そんなこともないんだよ。恋しい人に会いたいという思いは、極めて切実だ。それぞれに大事な思いつてもものがあるんだよ。しかし、そういう心をイチイチ認めたら、戦争なんて出来ないのさ。だってさ、我々がこれから百対ゼロで打ちのめしに行く、支那の兵隊だって人間だよ。それだけに恩師や恋人がいるだろう。支那の兵隊たちも、今夜、向こうで似たようなバカ騒ぎをしてるんじゃないか。僕は作家として、会ったこともないアメリカ人の気持ちを想像してセリフを書くようなことを、ずっと仕事にしてきたからさ。おそらく支那人の敵兵の顔を見ても、その人物の言いそうなセリフを思い浮かべてしまうだろう。この兵隊は恋人との別れの時、何と言い残して来たのだろう、なんてさ。そんなこと考えたら、鉄砲は撃てねえべ。

……

だから、レヴィウ作家の菊谷栄が戦場に行つてはいけねと思ったんだ。戦場に行くのは、津軽の菊谷栄蔵でねばダメだって。菊谷栄は、東京に置いて行くんだって。

……

我が菊谷班、全員、素晴らしいわけもんじゃないでしょう？

……  
(頷く)

僕は伍長として、彼らを最前線に率いて行かねばならないのです。

……

一 同  
菊谷  
一 同  
菊谷  
一 同

菊谷

きっぱりと切り替えて行くつもりだった。東京のことは、全部忘れて。良き軍人になり切つてさ。ご存知の通り、筋金入りのエーフリコキだからね。スマートにやりたいのさ。華麗な転身を遂げるつもりだった。そして散る時は、潔く散らうと、決意していた。

一同

……

菊谷

しかし、こうして、引き戻される……スマートに別れるはずの、ジャズやレヴィウとその仲間たちの世界に。音楽が聞こえて、踊り子に誘われたら、ついつい体が勝手に動いて、ジャズのリズムに飲み込まれてしまう。我を忘れて、ノッてしまう。別れようとしても、別れようとしても、どうしても別れられない……

忠作

栄蔵、そつたなこと当たり前だろう。お前はレヴィウに、一心不乱に打ち込んで来たんだ。お前の目は、レヴィウ人の目であり、耳はレヴィウ人の耳であり、精神はレヴィウ人の精神なんだよ。

俊吉

そればじよっぱれ、栄ちゃん。

幻想的な音楽が聞こえて来る。

一人の男のシルエットが見えて来る。

若き日のエノケン 榎本健一である。

舞台はゆっくりと転換してゆく。

榎本

あんた、絵描きなんだって？

菊谷

はい、油絵を学んでいます。

榎本

舞台には興味ないかい？

菊谷

歌舞伎や新劇はよく見ます。故郷では、友人たちの劇団を手伝っていました。

榎本

うちの背景、手伝ってくれないか？

菊谷

背景？

榎本

舞台セットの書割だ。山の絵とか、町の風景とか、バックに飾ってあるだろう。人手が足りないんだよ。今、風呂屋の背景描きにやらせてるんだが、富士山は見事に描くが、ロスアンゼルス風景がさ、まるで熱海になっちまうんだ。

菊谷

榎本さんは、俳優さんなんですか？

榎本

エノケンと呼んでおくれ。元は浅草のオペラボーイだ。このオヤジさんが、浅草に店出してた頃から可愛がって貰ってたね。今、浅草寺の脇の水族館で、レヴィウ一座をやってるんだよ。

菊谷

水族館で？

榎本

その2階だよ。水族館の魚はほとんど死んでるぞ。レヴィウ、分かる？

菊谷

さあ、あちらかオペラですか？

榎本

ま、その未来形だな。その目で見なきや分からんよ。一回、オヤジさんたちと見に来てよ。水族館の2階だよ。

気付けば座敷は、レヴィウの舞台に変わっている。

夢に誘う、オーバーチュアが聞こえて来る。

幻想のレビュー。

劇団ピエール・ブリヤントが青森の旅館の座敷に現れる。

見守る菊谷と、島内、俊吉、海次郎、君枝、トキ、浜子が観客として、その舞台を観る。

オープニング

M3 『エノケンの浮かれ音楽』（詞 サトウ・ハチロー）

廻るよ

歌が廻るよ 世界中を

海を渡り 野越へ山越へ

こいつは大変だ

今にどの街も みんな歌だらけ

アララ アララ アララ

オーヤオヤ アララララ ランラン

愉快千萬

歌が廻るよ 世界中を

今にどの街も みんな歌だらけ

アララ アララ アララ

オーヤオヤ アララララ ランラン  
愉快千萬

歌が廻るよ 世界中を

歌と踊り 幸子、ターミー

コーラスと踊り ダンサーズ

間奏パートで、タップダンス有り

M 4 『エノケンの洒落男』（訳詞 坂井透）

俺は村中で一番

モボだといわれた男

うぬぼれのぼせて得意顔

東京は銀座へと来た

そもそもその時のスタイル

青シャツに真赤なネクタイ

山高シャツポにロイド眼鏡（めがね）

ダブダブなセーラーのズボン

わが輩（はい）の見染めた彼女

黒い眸（ひとみ）でポップヘアー

背は低いが肉体美

おまけに足までが太い

馴れ染めの始めはカフェー

この家は妾（わたし）の店よ

カクテルにウイスキーどちらにしましよ

遠慮するなんて水臭いわ

こわいところは東京の銀座

泣くに泣かれぬモゴ

歌と踊り エノケン、祭

そこに、青森ねぶた祭のお囃子が鳴り響く。

## M5 『ねぶた祭』

踊り（全員）

跳人の扮装をした祭と、軍服の上に、跳人の飾りを付けた、菊谷班の兵隊たちが、跳ねながら、舞台に登場して来る。

「ラッセーラ、ラッセーラ……」

その勢いは、ダンサーたちも巻き込んでゆく。

観客として座っていた菊谷たちも、全員、その中に加わって、跳ね始める。

すべての人が入り乱れる熱狂の祭、しばし……

M 6 『フレンチカンカン』（天国と地獄）

踊り、ダンサーズ

ねぶた祭の音楽から次第にフレンチカンカンへと音楽が変わっていく。

華やかな衣装を纏ったダンサーたちが兵隊たちを挑発しながら陽気に踊る。

その情熱的な音楽とダンスに、魂を奪われる兵隊たち。カンカンが終わると、可憐なドレスに着替えた祭とエノケンが登場。

M 7 『エノケンの月光値千金』（詞 波島貞）

美しい人に出会ったときは

優しくてしとやかに膝まづいて

にやにやと笑って手を握りなさい  
大声をあげず逃げ出さないならば

あ、ら、まいけすかない人ですわね  
「まあおよしなさいましょ」

てな事を言っただて もう大丈夫  
彼女は私の両手を待ってます

彼女は私の両手を待ってます

歌と踊り エノケン、祭、歌川幸子、ターミー

コーラスと踊り 全員

大盛り上がりの内に、幻想のレヴィウは、幻として消えてゆく。

幻想のレヴィウが去って、  
双葉屋の座敷。

座敷には、菊谷と海次郎。

東京から届いた荷物を預かる、海次郎。

海次郎

では、これは確かに大事にお預かりします。

菊谷  
海次郎

それとこれ。金と遺言状だ。もしもの時は、全て海ちゃんに任す。  
わかりました……へば。

荷物を持って部屋から出ようとすると、そこに祭、浜子。

菊谷

ちょっと見送ってくるから。

菊谷、海次郎出ていく。

入れ代わりで、座敷に入る、祭と浜子。

祭

浜ちゃん、ボーイフレンド居ねえの？

浜子

いない、いない。

祭

早く出来たらいいね。ねぶたの時とかさ。

浜子

旅館はかき入れ時だよ。由紀ちゃんは？

祭　私は今、レヴィウが恋人なの。

浜子　見でみてなあ。

祭　うん、見て欲しい。私、絶対スターになるからさ。東京で一人きりになった時にさ、目の前は真っ暗だったけど。浅草でレヴィウを見て、突然パアと明りが付いたような気がしたんだ。その日、その座席で決めたんず。私も絶対あそこで跳ねようって。

そこにトキがやって来る。

トキ　大変なことになったんだ、今軍隊から知らせが来てね。突然、予定が変わって、第五連隊の出発が明日の正午になったんだ。先生のは？

祭　トキ　出発ってどこからですか。青森から船ですか？

トキ　祭　汽車だ。青森駅から軍隊の為の、特別の汽車が出るんだよ。広島まで行って船に乗り換えて支那に渡るんだ。

祭　トキ　広島まで汽車……へば、それは東京を通るってことですか？  
ああ、通る通る。

菊谷、君枝が入ってくる。

君枝　奥に、おやすみの用意もしてありますけど。

菊谷　いえ。やはりこれで戻ります。ありがとうございます。へば。

祭

菊谷さん。どうしてもお渡ししなければならぬ物があるんですけど。

(赤いカバンを抱えている)

ん？

君枝

下でお待ちしております。

君枝、トキ、浜子 出て行く。

祭、赤いカバンから、書きかけの脚本の入った封筒を手渡す。

祭

幸子さんからのお届け物です。これだけは、何があってもお渡ししないとけないって。

菊谷

(原稿を確かめて) これを幸子が……

間

祭

本当に一言も言わずに来てしまわれたんですね。

菊谷

(首を振って) もちろん、言おうとしてさ、幸子には真っ先に。

祭

へバ、なして？

菊谷

青森から電報受けて、その足で幸子の下宿さ行ったんだ。もう夜中だったな。でも幸子は留守でさ。もしやと思って稽古場に行ったのさ。そして案の上、まだ稽古してた。その日、僕が厳しいダメだししたからさ。自主稽古を繰り返してたんだ……

祭

……

菊谷

ドア越しに僕は見てたんだけどな。幸子は脇目も振らず、鏡を睨み付けて、踊り続けてた……その姿見たら、言えねえな。終わらせたくなかったんだよ、その時間を。その時間が永遠に続いて欲しいと思った。

幻想的な音楽が聴こえて来る

『ラプソディ・イン・ブルー』

菊谷

(じっと目を閉じる)

華やかな演奏に合わせて、再び幻想のレビューが見えて来る。

ドレスと燕尾服で、華麗に踊る、幸子とターミーの姿。

そんな菊谷を、艶やかな踊りたちが取り囲んで、美しい絵となっていく。

舞台は、新宿の舞台へ変化してゆく。

新宿第一劇場。

その舞台上。

緞帳が閉まっていて「火の用心」の幡が下がっているのが見える。

(※舞台奥が客席の態)

暗転が明けると、菊谷だけが消えていて幸子とターミー、踊り子たちが、舞台に残って、音楽劇が幕切れを迎えた様子。

「お疲れさまでした……」

場内アナウンスが聞こえる。

忙しく次の支度に走り回る、踊り子たち。

そこに駆け込んで来る、祭。

祭 おはようございます！ あの……あの……

フジ子 オオ、へば！ 帰ったか！

サハラ 心配したよ！ アンタ、伝令に何日かかっているのよ。

ソルテイ それで、菊谷さんに会えた！？

祭 はい、お会いしました。それで、それで……大変です！

ソルテイ どうした？

祭

はい、もうすぐ品川を通るんです。私は朝一番の汽車で出たんですが、軍用列車はどこにも止まらず、品川まで一気走りで。足がとても早いです！

サハラ

落ち着け、何言ってるか、ゼンゼンわかんねえ。何だって？

祭

菊谷さんに乗せた軍用列車が、今日の午後八時、品川駅を通過するんです。

フジ子

今日の八時！

祭

はい、今夜のです！

フジ子

今、何時だ！

池ちゃん

七時十分です。

サハラ

だけど、通過って、通過でしょ？

祭

品川では、多少停車をすることがあるそうです。

池ちゃん

今、行けば、間に合います。

踊り子たち

うん！

ソルテイ

でも、七時半から、二幕目ですよ。このあとの舞台はどうするんですか？

幸子も、舞台裏にやって来る。

フジ子

幸子、お前、行ってこい。

池ちゃん

そうだ、幸ちゃん、一目でもいいから会いに行ってきた。

サハラ

そうだ、走る窓越しでもかまわないじゃない。

ソルテイ

うん、ハンケチ振つといで！

踊り子たち

(口々に同意する)

幸子

でも、私、次の出番が……

池ちゃん

このチャンスを逃したら、次、いつ会えるか分かんないよ！

幸子

……

フジ子

幸子の出番は、みんなでカバーするから。

踊り子たち

(口々に同意)

そこに来る、ターミー。

ターミー

あんたたち、声が大きいよ！

一同

……

ターミー

祭、来て。榎本先生が呼びだよ。

祭

はい……

ターミー

皆、騒がないで。そのまま待機だ。

一同

はい……

ターミー、祭を連れて、楽屋に向かう。

緞帳の向こうから、聴こえて来る賑やかな客席の音……

一同

……

やがて羽二重に楽屋着姿の榎本健一が現れる。  
続いて戻ってくる、祭とターミー。  
そして他の団員たち……

榎本  
ボクが出たら、マイクロホンあげて、幕前に明かりをちようだい……

そして緞帳を割って、舞台前に行く。

観客たち、歓声。

エノケンの声が、舞台裏にも響く。

榎本の声  
どうも、どうも、たくさんのお運びありがとうございます。ピエール・ブリヤント座頭の榎本健一でございます。

歓声。

榎本の声  
え……

一同  
……

榎本の声  
実はお客様方に、折り入ってのお願いがあつて、出て参りました。ただ

今、ご覧頂きました音楽喜劇「ノー・ハット」を書きました、一座の座  
付作者・菊谷栄がこの度、お国に召されまして、間もなく、軍用列車で  
品川駅を通過するという知らせが、今、届きました。はるばる満州への  
大遠征でございます。

一同

……

榎本の声

品川通過が本日午後八時でございまして。この機を逃したら、今度、いつ会えるか分かりません。我儘を言って済イませんが、これから一時間半ほど、お暇を頂き、劇団員全員で見送りに行くことをお許し頂けないでしょうか？　どうか、お願い致します！　この通りでございまして！

すると客席から聞こえて来る、「行つて来い！」「このまま待つてるぞ！」「菊谷っ！」「栄っ！」「みんなで行けよ！」「何時でも待つぞ！」などという掛け声……

一同

……（見えない客席を拝む）

鳴り響く拍手。

榎本の声

ありがとうございます。必ず戻って、この続きを上演いたします。それでは行って参ります。

榎本、舞台裏に戻る。

榎本

行くぞ、急げ！

一同

はい！

それぞれ、支度に走る。

暗転。

蒸気機関と警笛の音。

品川駅。午後八時。

菊谷班の兵隊、佐々木と鈴木が、体操をしている。

佐々木

あと何時間、乗るんだ？ 腰が、もうバリバリだよ。

鈴木

ここ東京だんだよな……

佐々木

ああ、通り過ぎるだけだけどな。

鈴木

東京の空気だけでも吸ってくべ。(と深呼吸する)

そこに派手なメイクをしたまま、衣裳の上にコートなどを羽織ったピエール・ブリヤントの団員たちが、駆け付けて来る。

(※劇場、客席、通路に)

踊り子たち

(口々に) 菊谷さん！ 菊谷栄さん！

それに気づく、佐々木と鈴木。

佐々木

オイ、菊谷栄って、伍長のことかねえか？

鈴木

……

やがて祭も、駅に現れ、菊谷を探すが、佐々木と鈴木に気付いて、

祭 兵隊さん！ 私です！ 北乃祭です！

鈴木 おお、祭さん！ 何へここに？

祭 良かった、会えた！ 菊谷さんは、どこですか！ 見送りに来たんです、劇団全員で！

佐々木 今、呼んできます、菊谷伍長。

菊谷と、松葉、泉、船水、佐々木が現れる。

一同

……

菊谷と劇団員たちの顔が合う。

榎本が菊谷に駆け寄って、そのカラダを抱きしめる。

榎本 キクさん。

菊谷 舞台は？

踊り子たち 菊谷さん！

榎本 ああ、間に合った。

菊谷 驚いたよ。

榎本 ああ、キクさん、奇跡だよ。津軽の伝令が頑張ったんだ。

菊谷  
榎本

……  
お客さんに行かせてくれて、頼んだんだよ。そしたらさ、お客さんたちが待つからって大拍手で送り出してくれたんだ。みんなできたぞ！

団員たち、全員、菊谷の側を集まる。

榎本

キクさんの戦友の皆さんか？

松葉

いいえ、我々五名、菊谷伍長の配下であります。

榎本

そうか、ご苦労様です。

菊谷

座頭の榎本健一だ。

兵隊たち

(敬礼する)

菊谷

みんな、よく来てくれた。まさか、みんなに会えるとは……夢のようだよ。嬉しいよ。

踊り子たち、抱き着いたり、手を握ったりして、菊谷に挨拶する。

それぞれに兵隊たちにも、激励をおくる。

榎本

この部隊の隊長さんはおられませんかね？

松葉

隊長でありますか？

榎本

隊長さんにぜひご挨拶したいのです。隊長さんはどちらにおられますか？

松葉

隊長はえつと……あちらに。

すると現れる、第五連隊の工藤隊長。

工藤隊長

私が青森歩兵第五連隊・隊長の工藤です。

榎本

私、東京で役者をやっております。榎本健一でございます。（と深々と

頭を下げる）

工藤隊長

（敬礼して）はい、存じ上げております。お会い出来て、光栄です。

榎本

隊長様、この菊谷をどうかどうか、宜しくお願い致します。菊谷は、このエノケンにとって、いや日本のレヴィウにとって、とても大事な人間なんです。どうぞ無事に返してやって下さい。晴れの凱旋の日まで、この通り、お願い致します。

工藤隊長

わかったわかった。晴れての凱旋を約束しよう。

隊長、榎本と握手して、去る。

その間も、菊谷や兵隊たちと踊り子たちとの別れは続き、最後に祭が菊谷の前に進み出る。

菊谷

ありがとうな。君が知らせてくれたんだな。

祭

菊谷班の皆さん！（極端に訛って）「絶対に死んではまいねっきゃ。鉄砲の弾飛んでこねどさ行って、ねまっけてけるじゃ！」

兵隊たち

んだが、へば。

アナウンス「全員乗車せよ、全員乗車せよ。全員乗車せよ」  
ジリジリとけたたましく、汽車のベルとアナウンスが響く。

菊谷 それじゃ、ケンちゃん……

榎本 ああ……

と抱き合う。

菊谷 みんな、元気でな。良い舞台を頼むぞ。

一同 はい！

その時、美しいドレス姿の幸子が菊谷の前に進み出る。

菊谷 ……

幸子は、菊谷に思いを込めた情熱的なキスをする。

一同 ……

音楽と汽車の蒸気の音が重なって響く。  
その音に急かされるように、兵隊たちと菊谷、汽車に乗ってゆく。

それを見送る、一同。

榎本  
一同

天才、菊谷栄君！ 万歳！  
万歳！ 万歳！ 万歳！

やがて汽車が警笛を鳴らして、発車する。

ホームで、いつまでも手を振って見送る、ピエール・ブリヤン  
トの人々……

暗転。

ナレーションにて

昭和十二年十一月九日、北支戦線、最前線の激闘に於いて、菊谷栄は左  
こめかみに銃弾を受けて戦死しました。菊谷は常に先頭に立ち、小隊を  
鼓舞していたと伝えられています。

エノケンたちが品川駅に駆け付けた、その夜、新宿第一劇場満席の観客  
たちは、誰一人帰らずに、一座の戻りを待っていたそうです。

戦場の菊谷から、文芸部の友人宛に届いた手紙が残っています。

「今こそ本心を語りたいのです。忘れようとしても忘れ得ない愛着のレ  
ヴィウです。僕は敵弾に斃れる最後の時まで、レヴィウ人としてもものを  
見るでしょう……」

ジャケットを着て、ハンチングを被った菊谷栄、劇場で働く在りし日の姿が舞台に残る。

幕。

清野鏝一原案

佐藤文雄・菊谷栄、脚色

『最後の伝令』を一部改変、引用しています。

本作は菊谷栄氏とそれを取り巻く人々の記録や伝記をもとにして、作者が創作したフィクションです。

いかなる個人、団体も誹謗する旨はありませんので、ご了承ください。